

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

	文学研究科
<b>大項目</b>	<b>6 教育内容・方法・成果 (研究科)</b>
<b>中項目</b>	<b>6.2 教育課程・教育内容</b>
<b>小項目</b>	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
<b>要素</b>	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
<b>小項目</b>	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
<b>要素</b>	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

## II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程については、専門性を特化させた研究を行い、質の高い修士論文の作成を指導する。	→修士論文の完成度、提出状況、学生の進路、修士論文の査読評価。	A	B			
2. 後期課程については、優れた研究成果を携えた博士学位の取得者を安定的かつ継続的に輩出できるように指導する。	→領域ごとの博士学位論文授与数、博士論文計画書、予備論文、博士論文提出までの経過年月、審査結果、授与者の進路調査結果。	B	B			
3. 学位論文作成能力を養成するために研究の進捗状況に応じて段階的な指導体制を整備する。	→「研究演習」における学位論文計画および「博士論文作成演習」における予備論文の学術的達成度の評価。	B	B			
4. 専門分野の高度化および隣接分野との学際化に対応したカリキュラムを継続的に運営する。	→大学院生の多様なニーズに対応しているかどうかについての毎年の調査結果。	B	B			
5. 教育成果としての大学院生による学会発表、学会誌への論文投稿、研修への参加などを活発化する。	→日本学術振興会特別研究員への申請数、学内奨励金制度への申請数、その他の研究奨励金などへの申請数と採択状況。	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 前期課程では必修科目である「研究演習」と、選択科目である特殊講義・資料研究・特殊研究などを取得単位数も考慮してバランスよく配置し、教育課程を体系的に編成している。後期課程では、「研究演習」からスタート、博士論文計画書の提出と承認を経て「博士論文作成演習」に段階的に移行していく編成がとられている。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 前期課程では専門性を高めるとともに隣接分野との学際化に対応したカリキュラムの定着を目指して、全領域の学生が共通して履修できる「文学研究科特殊講義」を2010年度から開講したが、7領域から14名の学生が履修した。後期課程では研究者、高度専門家の養成を目指して、学会での発表や各学会誌での論文掲載を可能とする研究主体の教育内容を重視している。

その他	特になし。
-----	-------

### 《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合  
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合  
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

### ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	

### ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	

### ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「目標」1について、進捗評価が昨年度の「A」から今年度は「B」になっていますが、なにか「改善すべき事項」があるのであれば、記載が望まれます。

【学内委員】

○現在の大学院および社会の状況の下では、大学院生の研究発表に対する支援体制の構築が必要です。十分な奨学金などが利用できれば問題はないのですが、現状はそのようになっていません。したがって、さまざまな物質的な支援（たとえば、学会発表の際の交通費の補助や論文投稿の際の諸経費の補助など）も考えられてもよいのではないですか。

○よく整備されていて評価できます。なお、後期課程に進学する人材を育てることが望まれます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・2009年度に策定された目標の達成に向けた施策が概ね実行されつつあることが窺えます。引き続き目標の達成に対する努力が続けられることが期待されます。

・学際的分野が多くなっていると考えられるので、その対応が望まれます。

**【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】**

## ○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性
- ・学生の順次的・体系的な履修への配慮
- ・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

**IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述**

なし。